



### 大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

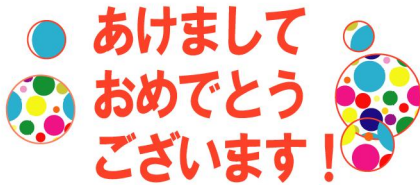
URL <http://jp-interior.or.jp/ois>  
blog <http://oisblog.exblog.jp>  
E-mail [ois@jp-interior.or.jp](mailto:ois@jp-interior.or.jp)

編集スタッフ

田原・石渡・広畑・河原・仲田  
奥田・岡崎

# 2008年

## No.74



# 葉知利書

は し り が き



協会も昨年、無事創立50周年を迎え充実期に入ったと考えられますが、この会を支える会員の若年層の無関心が問題になってきています。社会情勢、若者たちの意識が大きく変わってきているからにはほかなりません。近年の若者たちの価値観は私たちにはちょっと理解しにくいところもありますが、それでも昨年、仙台、京都、名古屋、大阪、宮崎などで出会った学生さんたちのなかにも、とても前向きな若者たちが数多くいました。いつの時代でも、元気な人もいればそうでない人もいます。元気な人ほどコミュニケーションを通じて、生の情報がし

らずしらずに蓄積されます。

もちろん社会の情勢や環境に影響されるでしょうが、大きくても小さくても、人それぞれに夢がある限り、それらのせいにせず、自分の意識を高めることが必要だと思います。輝いている人は魅力的です。一人ひとりの会員が輝くことにより、協会の魅力を強めていく一年にしたいと思っています。

皆さんできるだけ協会行事に参加して生の情報を手に入れてください。  
(会長・宮後 浩)



## 開運祈願初詣新年会

2008. 1. 6 (日) / 於・豊国神社



大阪城・桜門のまん前に豊国神社があります。そして、今年も出世開運の神様、豊国神社での奉納からOISの新年がスタートしました。社殿の厳かな雰囲気の中、皆揃って、これからの益々の発展のご祈願を受け、お神酒をいただきました。ここ7年と続く行事で、新年にふさわしく気持ちがひきまります。その後は参集殿で、新年会です。瓢箪のしるしがさりげなく配された落ち着いた建物です。恒例、美味しいお料理とお酒で大いに盛り上がり、今年はお正月らしく「かるたとり」を行い、景品には、入れたコインが消えるなどアイディア貯金箱が贈られました。  
(編集部)

## 見学記

### 當麻寺と奈良県五條市

昨年11月18日(日)にKIS(京都府インテリア設計士協会)主催の見学バスツアーで當麻寺と奈良県五條市を訪れました。OISから9名が参加、総勢33名と大変な活況でした。午前中は當麻寺を見学。客殿の絵天井にはタレント・片岡鶴太郎さん直筆の絵もあり、住職さんのありがたいお話も聞きました。その後一行はバスで移動。一時は雨空となりましたが、途中で昼食タイムをとりました。メニューは名物柿の葉寿司を含む和食と酒少々、楽しい時間を過ごしました。午後は五條市の古い街並みを散歩。古き良き時代を思わせるノスタルジックな空間でした。特に注目を集めたのは、終戦直後から日本の復興期の吉田内閣の法務大臣や防衛庁長官を務められた木村篤太郎氏の生家(旧辻家住宅)です。江戸時代の生活様式がそのまま残された貴重なものでした。古民芸調のデザインが流行している昨今、我々インテリアデザイナーに従事するものとして大変勉強になりました。建築設計事務所の主宰者も、日本建築の良さを再確認できたと感じる一コマも見られ、有意義なツアーでした。  
(記 朝日 勝彦)



揚げ饅頭、焼き餅で有名な餅商一ツ橋

# 事遊展



千田さんの連凧(写真の左側)

凧づくり風景



コラムデザインセンターで12月6日から開催した事遊展のテーマ作品は今回“凧”でした。そのための手作りサロンは11月13、20、27日と12月4日の4回。いつものように集まってワイワイ言いながら作ります。手作り凧キットの中から自分で好きなものを選んで作りました。

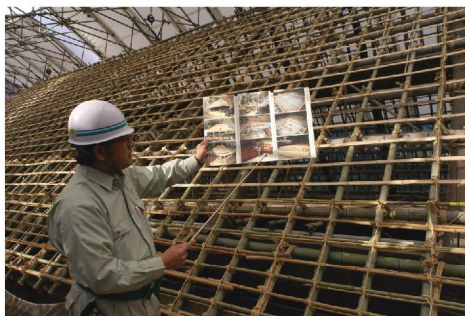
全回出席したのは梅田さん、根性あります。初参加の朝日さんや吉矢さんも、竹ひごを組んだり絵を描いたり、楽しそうでした。石渡さん、南野さん、仲田さん、今西さんはセンスある凧に仕上げ、さすがです。キットを選ぶタイミングが悪く最後に残った2つのキットを五代さんと取り合いました。五代さんは先輩の私をさしおいて先に簡単な方をとり制作開始、仕方なく残った難しそうなる連凧を渋々作って見ましたが意外と楽しくて五代さんに感謝でした。OISの事遊展は毎回テーマを決め共同制作しています。楽しく遊びながら友好を深めて行きましょう。

(記 千田 俊治)

## 見学記

### 日本民家集落博物館

～12月1日(土)～



藤木工務店・佐々木さんからの説明

以前から一度は行ってみたいと思っていた「日本民家集落博物館」の見学会が開催された。12月とはいえ晴天に恵まれ楽しい一日であった。

数十年前の奈良東大寺大仏殿の屋根葺替え工事と類似した見学会であったが、藤木工務店の佐々木さんの説明で民家の茅葺屋根の素屋根の様子が解り、飛騨白川の民家では「コマ尻」のディテールが参考となった。一番驚いたのは、信濃秋山の民家では土間に茅を敷いて、その上に「ムシロ」を敷いて寝起きしていたとのこと。話には聞いていたが実際のものを見るのは初めて。もっと驚いたのは同行していた家内が終戦前後の数か月間、疎開で四国の田舎で実際に生活体験をした、とのこと。これには、ボランティアで説明して下さった方も大変びっくりしておられた。家内の話では「子供の頃は茅の上で寝ながら外の月や星を観た」とのこと。



飛騨白川の民家

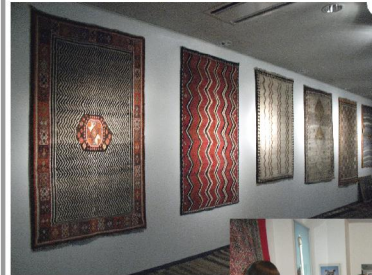
つい200年ほど、いや60数年前までの人びとの暮らしから、現在人の住まいの変わりようは……。冷房・暖房・セントラルヒーティング・高気密・高断熱・除湿機・加湿器・空気洗浄器・抗菌・除菌グッズに24時間風呂・携帯電話にインターネット、食品添加物に加工食品、サプリメント、あげくのはてに「メタボ」。

住居をはじめ生活環境は180度変化、恵まれすぎて「感謝」「ありがとう」の気持ちを忘れてしまった現在人、たまには昔の人の生活を振り返るのも無駄ではないと思った一日であった。最後に一言、住まいの快適性もほどほどに…とはいうものの、ひ弱な現在人「ヒートショック」にはご注意ください、なにする年間14,000人も死んでいるとのこと、念のため。(記 植村 哲)



信濃秋山の民家

### 絨毯ギャラリー



大熊館長(写真奥の人)の説明を受ける

10月13日(土)の見学会は最近注目のラグ、『ギャッペ』について勉強する絨毯ギャラリーでした。ギャッペはイラン西北(昔のペルシャ)を南北に走るザクロス山脈、その中で遊牧生活を営むカシユガイ族の女性達によって織られます。シルクで緻密に織り上げられるペルシャ絨毯と違い、ウールで奔放に織られた美しさを持ち、シンプルで大胆なデザインが特徴です。厳しい自然の中で使用されるため、当然丈夫で、クッション性も良く、色彩も褪せることなく、使い込むほどに味わい深くなっていくそうです。

絨毯ギャラリーの会場はとても広く、さまざまな種類の絨毯がありました。中には数千万円もする絨毯があり、その上で説明を聞いている自分にとまどいも感じました。しかしギャッペは値段もお手頃なので、暖色や寒色など季節によって色調の違うギャッペを楽しむこともできそうです。フローリングによし、和室に敷いてもとても映えます。

今まで絨毯にあまり興味がなかった自分も大変勉強になりました。(記 岡崎 正明)



昭和35年、三洋電機(株)工業意匠部テレビ意匠室へ新卒勤務。テレビが爆発的に売れた時代だった。早々と3か月目に輸出機種を担当を命じられ、当時のメンバーは5名から2年で13名に急増したが、すでに座敷向けの本製キャビネットが流行し、木材工芸科出身の小生は重宝がられ、井植社長の家庭用テレビの設計を担当した。米国GE社製23インチ内蔵のTVであったが、サイドボード型総桜材のキャビネットが採用され、当人の月給が3万円未満でその30倍以上もする夢の調度品だったので、総額では100万円以上だったと思う。四隅角柱を框組した前足2本の彫刻と挽物が特徴の豪華品で、彫刻部はGペンで細部表現したが、船大工の仮組みでは総桜が艶々しく、高級感を醸し出していた。

その後僅か21歳で独立したが、3年3か月間の在任中に14機種を担当、5割が4万台以上のヒット商品になったという有り難い結果を得ていた。そのせいだったのか、給料と異なる報償であったが、定時制の浪速短期大学の卒業もし、1回きりだが、羽田まで下請けのお迎え付きという飛行機での東京出張など、非常に恵まれた待遇から独立をも煽り立てたと思う。

昭和38~39年頃、高島屋で「ル・シャンプルシャルマント展」が開催され、単品の家具しか概念になかった時代に、トータルインテリアを暗示する偉大な企画に、衝撃的な感銘を受けた。当時先駆的にトータルな概念を示された田中健三先生(工芸高校卒の画家)は「創作の部屋」を心齋橋で主宰されていた頃、

関西産業能率学院のデザイン科創設で室長として、特別講師をお願いした縁で交流もあったが、平井進先生(SSS前会長)はその後継者のお一人でもあったと記憶する。当時、藤山愛一郎外務大臣が紺色に金鳩のピースのデザイン料が140数万円、米国の工業デザイナー、レイモンド・ローエに支払ったことの驚きで、彼の著書である「口紅から機関車まで」に憧れ、情熱的に己の実力を試すため多くのデザインコンペに応募していた。また、当時京都美大を卒業していない有名人?であった長谷(至剛さん)デザインで美術ガラス、陶芸小物、プラスチック容器デザインなどを手伝っていたが、お蔭様で京都の町家に上野伊三郎先生宅を訪問する機会を得て、リッチ先生に直接お茶を入れていただき、3時間あまりも団欒いただいた思い出もすごい。OSG(現OIS)主催のコンペで大阪商工会議所会頭賞を受賞したのもこの頃である。

小生は独立が早かったためにご交流頂けた大先輩諸氏であるが、浪速短大の恩師である中村真先生(工芸高校卒)、府立能率研究所出身の店舗設計家で山家一千代先生やビーナス工芸の松田逸郎先生、山川勝彦先生、特に西校卒の大先輩で高木茂雄先生(高木喬前常任理事の父上)は全国的に商業施設設計の偉大な先駆者であった。ご交流願えた時代背景は、店舗設計に向けて実践的なデザイン活動のジャンルを拡大するベースになり、当時の「先輩から盗み取る学習」の最たる環境でもあったと思う。

## 『陶芸教室』体験記

10月28日(日)、六古窯のひとつ丹波立杭焼の窯元・丹文窯の協力を得て開催されました。参加者は16名でした。

初めての参加者には窯元の大西さんから基本的な作り方や手ほどきを受けながら作陶開始しましたが、思うように形にならなくて粘土の状態にもどす人、他の人の製作状況を参考にしたり、丸くしたり、角にしたりと各自の力作ぞろいですが、焼き上がると8割ぐらいの大きさになるのと、釉薬のかかり具合などにより、出来上がった作品は粘土のときと少し変わったものになりますが、それが焼物の楽しみです。

作陶後は恒例になった軽食付の交流会を開催。焼きそば、てんぷら、焼き鳥、チャンチャン焼き、お酒で盛り上がりました。OISの親睦会の中で一番長く続けられている行事です。

作陶に自信のある方、ない方、初めての方一度参加してみてください。おもしろいものです。今年も10月に開催予定ですから大勢の参加をよろしくお願いします。(記 梅田 澄徳)



作陶風景



アウトドアパーティーの一コマ



梅田 澄徳氏・作

## 忘年会



昨年の合格者



クイズ考え中

2007年のクリスマス、OISなじみの店となりました『DEEP CUP』で、OIS忘年会が開催されました。店内は、懐かしい顔やフレッシュな顔等々たくさんの人で埋め尽くされ、和やかに始まりました。

はじめにKAGUKEN主催で【工人を育てる】をテーマのDVD鑑賞があり、古きよき時代の徒弟制度を彷彿させる厳しさの中にある、“人々物をつくる素晴らしさ”“誇りをもつ人間の強さ”を感じることができました。

酒盛りに笑顔があふれる頃、恒例のMr. 奥田特製のクイズも行われ、高得点のものから順に参加者全員へ、クリスマスプレゼントが配られました。大いにもりあがった忘年会でした。来年も、たくさんのお顔と会えますように!!

(記 石渡 由華)

# CGパース体験記<4>

Photo Shop で3DCGを完成!

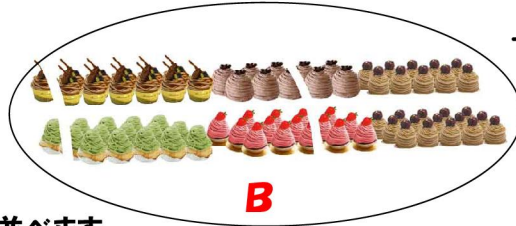
## お菓子のお店を仕上げましょう! その②

仲田 貴代史 (OIS理事・仲田デザイン事務所代表)



前回の最終 OA

前回の続きOAの床、壁、天井の明るさを調整します。「明るさ・コントラスト」や「色彩・彩度・明度」で明るくしたり。色彩、彩度を変えます。



B



A



C

次に、A にお菓子や、ピンの写真を並べます。

1. お菓子の写真画像 B を切り抜き並べる (コピーする)
2. ショーケースの中に納める  
変形でパース状に絞りを付け、フレームを切り抜く
3. バックの棚にもピンを同様に並べる。 C

### ロゴの変形

今回はロゴが平面状の壁についている場合と、R状の壁面についている場合の変形について説明します。



#### 平面状の壁についている場合

- ① まず adagio の画像 D を画面に取り込みます。
- ② 平面的についている場合は「変形」の「ゆがみ」でパース状に右の方を絞り込む。  
次に「変形」の「拡大縮小」で横方向を縮める。
- ③ adagio が箱文字なので厚みをつける。厚みは adagio をコピーして、そのレイヤーを元レイヤーの下に置き「色彩・彩度」で濃いグレーにし左下にずらす。



D



#### R状の壁面についている場合

- ④ まず adagio のロゴの左の a を除き dagio を選択し、「変形」の「ゆがみ」「拡大縮小」で右下方向にゆがめ、横方向を縮める、これで d の変形完成。次に agio を選択し d の時と同様に変形します。これで a が完成。
- ⑤ 次の g,i,o と同様に変形して R 状になる様曲げていく。adagio が R 状に曲げれば、次に箱文字の厚みをつけます。
- ⑥ 平面的な変形のとくと同様にしますが、コピーして下に重ねるだけでは、この場合はダメで右へ行く毎に厚みの幅が大きく見えるので、一文字ずつコピーを重ね、元文字とコピーの間をとじる必要がある。



i の文字の黄の元文字とグレーのコピーとが離れているのでその間をとじる。箱の部分の色を合わせる。

これで完成です。同じロゴの箱文字を作るにも、平面状か R 状かで大変手間が違います。



最終完成図